

の喧騒を離れて自然と向き合うことができるのは、自然科学に携わる者にとつては大きなメリットです。あくまでも自然は畏れるべき対象であり、知り尽くし征服し得る対象ではないという原則をいつも思い起こさせてくれ、自然に対する謙虚な気持ちを保つことができています。研究に終わりはなく、解明・解決すべき命題は数多く残されています。今回の受賞を励みとして、今後も一生懸命、研究・教育に尽力して参りたいと思います。

学術研究

人文社会分野「認知科学教育心理学」

名古屋大学大学院教育発達科学研究科 准教授



清河 幸子 氏

他者との相互作用を通じた

創造的問題解決プロセスの解明

このたびは栄えあるとやま賞を授与いただき、大変光栄に思っております。受賞の対象となった研究は、主として大学院生時代に行ったものでしたが、研究の持つ意味や今後の展開を考え直す大変よい機会となりました。

私がこれまで取り組んできた研究テーマは、「新しいアイデアを生み出す」「ものの見方を変える」といった創造的問題

解決において、他者とのやりとりがどのような役割を果たすのかを解明するというものです。「二人寄れば文殊の知恵」という成句に表されているように、我々は、他者と一緒に問題に取り組むことによつて、一人では思いつかなかったような創造的なアイデアが生まれるのではないかとこの期待感を持っているように思われます。この期待が妥当であるのか、また妥当であるとしたら、その効果がいかにして生じているのかを明らかにすることを目指して、実験による検討を重ねてきました。その結果、他者とやりとりすることによつて、一人では十分に機能しないメタ認知機能が補償されることで創造的問題解決が促進されることが明らかとなりました。この結果は、たとえば、具体的なアイデアや解答自体が示されなくても、他者とやりとりをする中で、自らの取り組みに対する振り返りが促進され、結果として、創造的な問題解決が促されることを示唆しています。

私の研究成果もまさに共同研究者とのやりとりの中で生み出されてきたものです。今後も、様々な方との積極的なやりとりを通じて、新たなそして実践的に有用な知見を生み出していけるよう努力を続けていきたいと考えています。このたびはありがとうございました。

スポーツ

競歩

防衛省 自衛隊体育学校



谷井 孝行 氏

第15回世界陸上競技選手権大会 (2015北京) 50km競歩 3位

富山で一番名誉ある賞、それがとやま賞だと私は思っています。私にとつてこの賞を受賞できたことは本当に嬉しく誇りに感じます。高校から競歩を始め世界ユースで銅メダル、国体では連続大会新で2連覇という実績で16年前にとやま賞の推薦書を提出しましたが落選しました。富山でその年に一番輝いた選手に与えられるものでそれ以降、私にとつてとやま賞が特別な賞となり、いつかは受賞したいと心のどこかにありました。長い月日がたち、ようやくチャンスが訪れました。世界陸上で日本競歩界初のメダルの獲得をし、私はもちろんのこと今まで支え応援してくれた方々にとつてもとても大きなものとなりました。世界でのメダルは私が高校の時から思い描いていた夢です。長い年月をかけてコツコツとやってきて形になったのが世界陸上の銅メダルだったのかと思います。私にはとび抜けた才能はありません。しかし、努力を積

み重ねる力は誰よりも強いと思っています。

今後の目標は自分自身の力をどこまで伸ばしていけるかということに挑戦することです。自分の可能性を最大限に引き出していく中で、今後の世界大会のメダルを目指していきたいと思えます。

最後になりますが私が育ててくれた富山県に少しでも恩返しができるよう皆さんに感動や勇気を与えられますようこれからも精一杯頑張っていきます。今後も応援宜しくお願いします。

お知らせ

第34回「とやま賞」贈呈式

日時：平成29年5月30日(火)

贈呈式 13時30分～14時00分

受賞者スピーチ 14時10分～15時50分

場所：富山国際会議場メインホール

※参加をご希望の方は、財団までお問合せください。

お問合せ先

TEL：076-444-2000 / FAX：076-444-2001
E-mail:toyama-award@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp/zaidan/index.html